

年 組 名前：

規格外おもちゃ配布

都留・にこ研

都留市を拠点に子育てを支援するNPO法人「にこ研（親子のえがお研究クラブ）」は、検品から漏れたおもちゃを譲り受けて子育て世帯に無料で配っている。市まちづくり交流センター内にある交流室の利用者に向け、ミニカーやパズルなどを用意。担当者は「子育てや子どもの成長に役立ててほしい」と話している。

〈深沢澤〉

譲り受け無償で子どもに

おもちゃは知育教材の企画や販売を手掛けるエド・インタール（兵庫県尼崎市）が製造し、検品で不合格となったもので、使用は可能。エド・インタールが、炭製造業の炭義（都留市大野）に「販売できないおもちゃを炭の材料として活用してほしい」と持ちかけたところ、炭義の鈴木弘明社長は「子どもに喜んでほしい」と考え、おもちゃを有効活用できる事業者を募った。手を挙げたのがにこ研だった。

にこ研は8月下旬、炭義からおもちゃを無償で譲り受け、配布をスタート。配布は1世帯当たり一つまでとし、9月中旬までに約100世帯に配った。9月21日には再び炭義からおもちゃを引き取り、配布を続けている。市内に住む小泉咲花ちゃん（6）は21日、交流室を訪れ、目を輝かせながら木製の鍵盤楽器を選択。「音楽が好き。家に持ち帰ったらたくさん遊びたい」と笑顔を見せた。

にこ研は今後、主催するマルシェや交流イベントでもおもちゃを配布する予定。配布上限も、子ども1人当たり一つに増やすことを検討している。にこ研の織田果奈理理事長は「子どもたちのために快く提供していただき、とてもありがたい。おもちゃで楽しく遊んでもらうことで、保護者の子育てや子どもの成長をサポートしていきたい」と話していた。

(2022年10月8日付 山梨日日新聞26面)

問1 都留市のNPO法人は、どのようなおもちゃを「子育て世帯」に、無料配布していますか。

.....

問2 市内の小泉咲花ちゃんは、どんなおもちゃをもらい、どのようしたいと話しましたか。

もらったおもちゃ →

どのようになりたい →

問3 あなたは、この活動について、どこが良い点だと思いますか。

.....

.....